

年報



東北大学

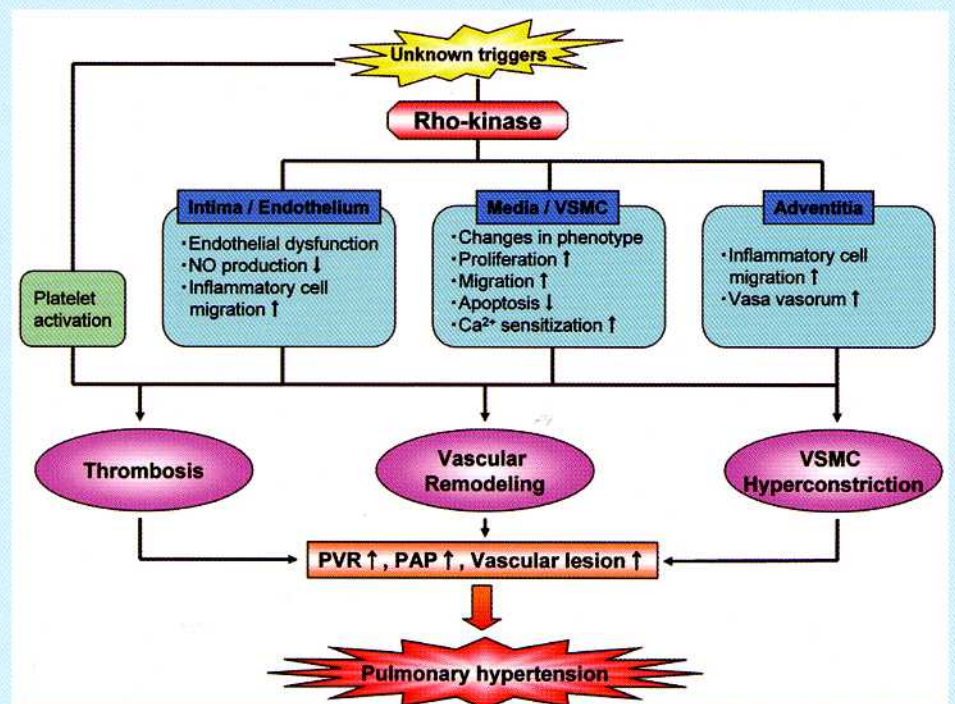
2007年（平成19年）度版

東北大学大学院医学系研究科循環器病態学

同上 循環器先端医療開発学寄附講座

同上 循環器EBM開発学寄附講座

東北大学病院 循環器内科



2008年7月

目 次

ご挨拶	1
教室活動総括	3
教室構成・関連病院	5
新入局員紹介	10
循環器 EBM 開発学寄附講座の設立	15
診療実績	
入院患者数とその内訳	21
外来診療実績	24
虚血グループ診療実績	25
循環グループ診療実績	27
不整脈グループ診療実績	30
CCU 診療実績	32
症例カンファレンス	33
病棟での活動報告	35
教室広報誌「Heart」(第3～8号)	36
研究業績	
教室の業績	51
受賞報告	98
研究費実績	99
星陵循環器懇話会	100
留学生近況報告	104
主催学会	
第37回日本心脈管作動物質学会	107
第145回日本循環器学会東北地方会	109
第1回東北大学肺高血圧国際ワークショップ	110
教育実績	
学部・初期研修医教育	117
臨床抄読会	119
仙台心臓血管研究会	124
学内リサーチセミナー	125
Work in Progress	126
社会活動実績	
心電図勉強会	129
東北大学病院循環器生涯教育講座	130

東北医学会講演会	131
----------	-----

目 次

新聞・テレビ報道

新聞・テレビ報道	135
衝撃波治療	136
大規模臨床試験	137

教室行事	143
------	-----

関連病院近況報告	151
----------	-----

関連病院業績	163
--------	-----

ご挨拶

平成19年度は、当科(医学系研究科循環器病態学分野および大学病院循環器内科)にとりまして、更なる飛躍の年であったと思います。暖かいご支援やご助言をいただきました多くの皆様に深く感謝申し上げ、平成19年度の当科の活動をご報告申し上げます。

研究面では、平成19年10月に、製薬メーカー18社からご寄附をいただき、当科としては2番目の寄附講座になります「循環器 EBM 開発学寄附講座」を開設しました。このことにより、現在、教室で実施しております臨床疫学研究やこれから実施を予定しております臨床研究に関する体制が整いました。また、心不全に関する大規模臨床研究である「CHART-2 研究」・「SUPPORT 研究」, 「冠攣縮研究会」(全国62施設が参加)における全国多施設登録研究, そして慢性心不全におけるメタボリックシンドロームの意義を明らかにする「厚生労働省班研究」も順調に進行しました。また、平成20年2月2日には「第37回日本心脈管作動物質学会」, 同年3月19日には「第1回東北大学肺高血圧国際ワークショップ」を主催いたしました。基礎研究の方も、徐々に体制が整ってきており、分子レベルから大型動物までの研究体制が整ってきました。

臨床面では、平成19年度は、虚血・循環・不整脈の診療3チームの診療実績が大きく伸びました。東北大学病院は肺・心臓移植施設として東日本で重要な役割を果たしており、各地から重症の肺高血圧・心不全患者が紹介され、教室員一丸となって診療に当たっております。

教育面では、卒前の学部教育、卒後の臨床研修、そして大学院の研究教育まで、幅広い範囲で多くの改革を行いました。平成20年4月には、8名の入局者(大学院進学)があり、教室が活気づいております。今後も、多くの若者が集う魅力ある教室に育てていきたいと思っております。

今後とも、ご支援・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成19年7月吉日

東北大学大学院医学系研究科循環器病態学分野
同 上 循環器先端医療開発学寄附講座
同 上 循環器 EBM 開発学寄附講座
東北大学病院循環器内科

下川宏明

教室活動総括（2007年4月～2008年3月）

下川宏明教授が着任されて3年目となった平成19年度の大きな出来事としては、下川教授が第37回日本心脈管作動物質学会を2月に、第1回東北大学国際肺高血圧シンポジウムを3月に主催され、いずれも盛会裏に終えることができたことがあげられる。また、2つ目の寄附講座として新たに循環器EBM開発学寄附講座が開設されたことも特筆に値する。

臨床面では、3つの診療グループ（虚血、循環、不整脈）は、それぞれの分野で先進的診療を行いながら、臨床研究と学生・研修医教育に常に力を注いだ。虚血性心臓病に対する体外衝撃波治療、肺動脈性肺高血圧症に対する先進的薬物治療、難治性心房細動・心室頻拍に対する心筋焼却術なども順調に症例を重ねている。平均病床稼働率は98%に達し、稼働額は平成19年度も大学病院の全診療科中トップであった。

研究面では、各研究グループが今年も多く国内外の学会でその成果を発表し、欧米の一流誌に論文が掲載された。各グループの基礎および臨床研究に加えて、関連病院の諸先生に協力を頂きながら、心不全患者の登録事業CHART2および介入試験であるSUPPORTを鋭意進めた。受賞関連では、中野誠が東北大学総長賞を、加賀谷豊が東北大学医学部奨学賞（金賞）を、多田智洋と福井重文が第37回日本心脈管作動物質学会奨励賞を、ジョラン・チチゴが第1回東北大学国際肺高血圧シンポジウムのBest abstract awardをそれぞれ受賞した。

教育面では、平成19年度からの新しい企画として、東北大学病院心電図勉強会と東北大学病院循環器生涯教育講演会を開催した。心電図勉強会は、4月から7月まで計12回開催し、当教室の教員が心電図の読み方の講義と演習問題の解説を行った。医学部学生、研修医、看護師ら延べ2,089名が参加して大変盛況であった。また、東北大学病院循環器生涯教育講座は当教室の教員が担当し10回開催した。参加者は医師がほとんどであったが、延べ864名の参加があった。医学部教育では、今年も3次臨床修練、高次臨床修練として、それぞれ医学部5年生と6年生が各診療グループに配属され、これに初期研修医と大学院生が加わって、いわゆる屋根瓦方式による臨床教育を行った。

医局員の移動では、4月から新たに8名が入局し、うち7名の大学院生が教室のメンバーに加わった（1名は社会人入学）。武田守彦が米国留学（フロリダ大学）から戻り、平成19年4月から1年間大崎市民病院に赴任した。さらに菅井義尚が平成19年10月から平鹿総合病院へ、国生泰範が平成20年1月から平鹿総合病院へ、また平成20年3月末で縄田淳が中嶋病院へ、熊谷浩司が群馬県立心臓血管センターへ、多田智洋がいわき市立磐城共立病院へ異動した。また、浅海泰栄が平成20年1月から米国ボストン大学へ留学した。

（文責 加賀谷 豊）